

平成 29 年度

看護管理学／看護体系・機能学分野
基礎看護学教室

年報

2017 年 4 月 1 日—2018 年 3 月 31 日

巻頭言

3年目にして立つ?!

私が看護管理学／看護体系・機能学分野（基礎看護学教室）に着任して3年目となる2017（平成29）年度は、研究室としてのかたちや方向性がみえてきた1年だったように思います。

4月には駒形和典助教が東京大学医学部附属病院に異動し、昨年からの非常勤で来ていただいていた市川奈央子特任助教が常勤となり、教員4名体制に戻りました。修士課程には5名の新生が入り、修士課程2年次7名、1年次5名に卒業生1名が加わって、大学院生室が一気ににぎやかになりました。

学部教育は新カリキュラム移行2年目で、3年生にこれまでより半年早い7月に短期集中で看護技術を習得させて、基礎看護学実習で統合することを目指しました。不安もありましたが、学生の高いモチベーションと吸収力、そして教員やティーチング・アシスタント、臨床実習指導者の丁寧で熱意ある指導によって、見事に学習目標を達成できました。実習ではたくさんの感動があり、臨床の素晴らしさと学生の力に感激しました。

その翌週には当研究室がコーディネーターとなって、東京大学サマープログラムを開催しました。台湾、香港、タイから4大学7名の大学院生が参加し、各研究室との交流を楽しみながら学んでいただきました。

そして、秋から冬にかけては、学部教育を展開しながら、当研究室から初めての修士論文を、しかも6本提出するとあって、大学院生も教員も修士論文の完成と発表に多くのエネルギーを投じました。

こうして振り返ると、教育に本当に多くのエネルギーを投じた1年でした。そして今、その努力が実を結びつつあると感じています。6名が優秀な成績で修士号を修め、進学希望の4名が全員博士課程に進んだことは、本当にうれしく心強く思います。就職を選んだ2名も学会発表を終え、報告書を送り、投稿あるいはその準備を整えて、新しい職場に旅立ちました。今年度、27件の学会発表ができたことを小さな前進として喜んでいますが、次年度は論文投稿も含めてさらに活発に研究成果が発信できることでしょう。

3年が経過し、看護管理学とは何か、私たちがここで取り組む研究課題は何か、という問いによりよく答えを出せるようになりました。「看護管理学は看護の力をより効果的に患者に届け、社会に活かす方法を探求する学問であり、看護の視点や価値観を組織活動に活かすことを追究する学問である」、「私たちは、人や組織が潜在的に持つ力を最大限に引き出す仕組みや方法を明らかにすることで、患者、看護職、組織、社会—そのすべてに幸せをもたらすことを目指している」と。論語でいうと、学問を志し、ようやく立ち始めたところでしょうか。次の「不惑」に向かうためには、教員が各々の研究テーマを追求し、研究を展開し公表して実績を重ねる必要があると感じます。教員と大学院生がともに研鑽しながら、研究課題に取り組んでいきたいと思えます。

今年度末には、これまで当研究室の基礎づくりに大きく貢献してくださった竹原君江講師が名古屋大学大学院医学系研究科に准教授としてご栄転されました。心から感謝し、これからの活躍を応援したいと思えます。そして、就職や医学部進学のために巣立った4名の学生が大きく羽ばたくことを期待しています。

平成30年4月10日

准教授 武村雪絵

主な出来事

2017年4月

特任助教1名着任

修士課程5名入学

2017年5月

卒論生1名受け入れ

2018年1月

修士課程学生6名修士論文提出

2018年3月

竹原君江講師退職（名古屋大学大学院 准教授として異動）

修士課程学生6名修了（4名進学、2名就職）

修士課程学生（休学中）1名退学（他大学医学部進学）

学部生1名卒業

教室員

准教授

武村雪絵

講師

竹原君江

助教

國江慶子

特任助教

市川奈央子

非常勤講師

石田昌宏（参議院議員）

井出恵似子（東京ベイ・浦安市川医療センター 経営企画室 企画室補佐）

川添高志（ケアプロ株式会社 代表取締役）

小林正弥（千葉大学大学院人文社会科学部研究科 教授）

北居明（甲南大学経営学部経営学科 教授）

島田陽子（厚生労働省医政局看護課 課長）

水流聡子（東京大学大学院工学系研究科 教授）

平林勝政（國學院大学 名誉教授）

事務員

小川繁子

客員研究員

相川祐里

池田真理

大西淳子

奥山絢子

栗原良子

坂木晴世

柴田めぐみ

佐々木美奈子

佐藤博子

堀成美

真下綾子

OG/OB

駒形和典（東大病院看護部/H27～29 教員）

大学院生

修士課程 2 年

磯部環

小澤茉祐

梶井万里絵

川口倅左

佐伯昌俊

船越千佳

修士課程 1 年

石井馨子

甲斐貴雅

田中慎吾

長坂雄太

高橋好江

休学

遠藤優

ゼミ参加大学院生

博士課程：石井絢子

学部生

五十嵐和奏

学部講義

基礎看護学教室は、看護学概論、基礎看護学Ⅰ、看護支援技術論、基礎看護学実習、看護管理学・看護管理学実習、初年次ゼミ（駒場）を担当した。

看護学概論

時間：10：25～12：10

場所：医学部3号館S101号室

| | | | | |
|-----|-----|-----|-------------|---------------------------|
| 9月 | 26日 | (火) | 10：25-12：10 | 看護とは |
| 10月 | 3日 | (火) | 10：25-12：10 | 看護の提供者と対象の理解 |
| 10月 | 10日 | (火) | 10：25-12：10 | 看護を語る ※ |
| 10月 | 17日 | (火) | 10：25-12：10 | 看護過程 |
| 10月 | 24日 | (火) | 10：25-12：10 | 看護における倫理 |
| 10月 | 31日 | (火) | 10：25-12：10 | 看護理論発表 |
| 11月 | 7日 | (火) | 9：30-12：00 | 多職種連携（IPE）（医学科・薬学部との合同授業） |

※非常勤講師：大橋 優美子（東京大学医学部附属病院 糖尿病看護認定看護師）

評価：出席状況と課題発表、レポートにより評価を行う。

出席が3分の2に満たない場合は単位を取得できない。

また、正当な理由なき遅刻及び退出が30分を超えた場合には、当該講義コマは欠席扱いとする。

基礎看護学Ⅰ

場所：医学部3号館S201・202、医学部5号館201（汎用実習室）

日時：木曜日 13:00～16:40（延長することがある）

| | | | |
|-----|-----|-----|---------------------------|
| 11月 | 30日 | (木) | 患者から聞く技術〔問診〕 |
| 12月 | 7日 | (木) | 安全な環境を整える技術：感染管理 ※ |
| 12月 | 14日 | (木) | 早期体験実習（東大病院） |
| 12月 | 21日 | (木) | 患者を診る技術：バイタルサイン |
| 12月 | 27日 | (水) | 患者に適切なケアを提供するための思考過程：看護過程 |
| 1月 | 11日 | (木) | 患者の回復力を妨げない技術：療養環境 |
| 1月 | 18日 | (木) | 患者の回復力を支援する技術：食事 |

※非常勤講師：三橋美野（東京大学医学部附属病院 感染対策センター主任副看護師長）

評価：1) 出席状況、2) 各講義での学びと感想のレポート、3) 「基礎看護学Ⅰ」全講義終了後の最終課題、以上の3点で評価を行う。

注意点：演習形式の講義を行うため、正当な理由なき遅刻、欠席は認められない。

演習の進行状態により5限まで延長する可能性もある。

看護支援技術論

場所： 医学部 5 号館 201 (汎用実習室)

日時： 集中講義 13:00～16:40 (延長することがある)

- 7月 3日 (月) 13:00-18:35 看護コース実習オリエンテーション
フィジカルアセスメントの基礎
フィジカルアセスメント (呼吸系、循環系、消化系、泌尿器系)
- 7月 4日 (火) 13:00-18:35 フィジカルアセスメント (運動系・神経系)
移動・移乗
- 7月 5日 (水) 13:00-18:35 身体の清潔 (清拭、更衣、洗髪、足浴)
- 7月 6日 (木) 13:00-18:35 排泄ケア (導尿、床上排泄、陰部洗浄、おむつ交換)
- 7月 7日 (金) 13:00-18:35 基礎看護学実習オリエンテーション
技術テスト

評価：出席、演習への取り組み、技術テストにより評価を行う。

履修上の注意：

- 履修条件 看護学概論、基礎看護学 I の単位取得者。
- 健康支援実習の単位を取得していることが望ましい。
- 演習中心に行うため、正当な理由なき遅刻、欠席は認められない。

基礎看護学実習

1. 目的

病院において療養生活をしている患者を理解し、基本的看護技術を臨床現場において適用するとともに、看護過程について実践を通して学ぶ。

2. 目標

- (1) 病院という場、看護師の役割および病院での療養生活の概要についての理解を深める。
- (2) 担当患者の状態に応じて、適切な患者—看護師関係を築くことができる。
- (3) 健康障がいがある患者の日常生活にどのように影響しているかを観察し、考えることができる。
- (4) 担当患者の状態に応じて、日常生活の援助を実践できる。
- (5) 担当患者の状態をアセスメントし、看護上の問題および目標を明らかにすることができる。

3. 実習施設

東京大学医学部附属病院

(A 棟 6 階北病棟・A 棟 8 階北病棟・A 棟 13 階南病棟・B 棟 4 階病棟)

4. 実習期間

平成 29 年 7 月 18 日 (火)～平成 29 年 7 月 28 日 (金)

5. 実習内容及び進め方

- 病棟での実習時間は 8:00～16:00 とし、昼食のための休憩を 1 時間取る。
- 各学生が一人の患者を受け持つ。
- 実習指導者及び担当教員の指導を受けながら、日常生活援助を病棟での看護に組み入れて実践する。

- ・ 日常生活援助の計画については、日々の実習記録に記載し、毎日の実習開始時に実習指導者及び担当教員の指導を受ける。
 - ・ 患者についての情報収集・アセスメントを行い、指導の下に患者の全体像を理解するとともに、看護問題を明確化し看護目標を立てる。
 - ・ 看護目標にもとづき、看護計画を立案、実施・評価する。
 - ・ 毎日の実習終了時に 30 分程度のショートカンファレンスを行い、その日に学んだことや、看護活動を展開する上で検討を要することについて実習指導者及び教員とともに話し合う。
 - ・ 7月21日（金）の午後にロングカンファレンスを行い、患者の全体像の整理、関連図の修正、看護計画の立案などについて実習指導者及び教員とともに話し合う。
 - ・ 7月24日（月）午前中に週末の様子などを踏まえて、実習指導者及び教員とともに看護計画の修正を行う。
 - ・ 7月27日（木）午前中に全体発表会を行う。病棟実習全体を通して患者との関わりや看護について学んだことを各学生が発表し、病院看護部・病棟師長・実習指導者・担当教員と共有する。
6. 病棟実習全体発表会について
- （1）発表内容
- ・ 受け持ち患者を紹介するとともに、実施したケアとその評価や患者との関わりの変化など、テーマを決めて発表する。実習の感想を含めても良い。
- （2）発表時間
- ・ 学生一人あたり 5 分程度
7. 評価方法
- ・ 出席、実習内容および実習記録、レポートによって総合的に評価する。
8. 提出物について
- （1）①毎日提出：「1日の行動計画」、「温度版」
- ②実習中に提出
- ・ 「基礎情報」、「薬一覧」：平成29年7月20日（木）の実習開始時
 - ・ 「関連図」、「問題・課題リスト」：平成29年7月21日（金）の実習開始時
 - ・ 「看護計画」：平成29年7月24日（月）の実習開始時
- ※ ①、②を必要時修正加筆し、（2）のレポートと一緒に提出する。
- （2）レポート課題
- ①臨床実習で学んだこと（A4サイズ、2頁以内、表紙不要）
- 期限：平成29年7月31日（月）17：00
9. その他
- （1）全出席を原則、遅刻は厳禁とする。やむを得ない事情で欠席する場合は、指導教員に速やかに連絡を取ること。
- （2）実習中は病院内の更衣室を借用し、実習衣、ナースシューズを着用する。ロッカーの鍵を借用するため紛失しないよう管理し、実習終了後、教員に返却すること。

看護管理学・看護管理学実習

【講義】

場所：医学部3号館S201・202

- 9月19日（火）10:25～12:10 看護管理学概論、看護をとりまく制度
13:00～14:45 組織と人の管理、看護提供システム
14:55～16:40 キャリアと生涯学習
実習オリエンテーション

* 看護学実習要項2017～2018年を持参すること

- 9月20日（水）10:25～12:10 医療における情報 ※
13:00～14:45 医療安全と質保証
14:55～16:40 チームコミュニケーション

- 9月25日（月）13:00～14:45 実習前半のまとめ

※非常勤講師：齋藤 凡（東京大学医学部附属病院看護部情報担当）

【実習】

- 9月21日（木）・22日（金） 東京大学医学部附属病院
9月26日（火） 聖路加国際病院
9月27日（水） 東京大学医科学研究所附属病院
9月28日（木） 講義・実習全体のまとめ（医学部3号館S201・202）

備考：講義は出席が3分の2に満たない場合は単位を取得できない。

また、正当な理由なき遅刻及び退出が30分を超えた場合には、当該講義コマは欠席扱いとする。
実習は原則として全日数の出席が必要である。

2017 初年次ゼミナール理科

「つくろう！大学生の生活の質（QOL）向上プログラム」

担当：基礎看護学・家族看護学

Sターム：月曜日4限 全13回

対象：1年生

場所：駒場（KOMCEE K301）

【授業の概要】

この授業では、大学生の生活の質（Quality of Life: QOL）とは何かを考え、QOLを高めるための方策（プログラム）を考え、その効果を評価するための研究方法について考えます。

皆さんにとって、充実した大学生活とは、あるいは豊かな生活、幸せな生活とは、いったいどのようなものでしょうか？どのようなところに着目し、どのような状態を目指して、どのような介入を行うのかは、皆さん自身に決めていただきます。自分が大切に思うことを言語化したり、グループでアイデアを出し合ったり、過去にはどのような試みがなされているのか、その効果はどうだったかについて調べたりしながら、プログラムを作成し、その効果の検証方法を研究計画として完成させます。

この過程を通じて、人がその人らしく生きることや幸せを向上させること、健康を維持向上するこ

とに関わる概念やこれらに影響を与える要因、介入方法について学び、人の健康を総合的に捉える視点を養います。また、身体的健康だけでなく心理社会的状態を測定する方法や、プログラムの効果を検証する方法、人を対象に研究する際の倫理的な問題など、学術的活動の基礎となる考え方や倫理観を養います。また、授業を通じて論文読解、レポート作成、ピアレビュー、グループワーク、調査、プレゼンテーションなどのスキルも系統的に学習していきます。

【授業の目標】

- ・論文読解、レポート作成、ピアレビュー、プレゼンテーション、倫理観など、大学で学習する上で基礎となる学術的スキルを習得し、能動的に学習することを学びます。
- ・グループワークを通じて、コミュニケーション、対話と討論、役割分担、リーダーシップなどのスキルを身につけます。
- ・大学生の生活の質（皆さん自身が充実した大学生活あるいは豊かな生活を送ること）を構成する概念と測定方法、生活の質を高める方策とその効果の検証方法を考えます。

【スケジュール】

- 4月10日 共通ガイダンス
- 4月17日 共通授業（検索実習の共通講習を含む）
- 4月24日 ガイダンス「つくろう！大学生の生活の質（QOL）向上プログラム」
- 5月1日 生活の質（QOL）とは何か学ぶ／論文を読む／レポート作成
- 5月8日 あなたの生活の質（QOL）と測定方法を考える／ピアレビュー
- 5月15日 あなたの生活の質（QOL）を高める方法を考える
- 5月22日 プログラムの対象領域を選ぶ／プログラムのねらいを考える
- 5月29日 候補となるアプローチを考える
- 6月5日 研究倫理／プログラムを立案する（ねらい、目標、対象、介入方法、介入期間）
- 6月12日 研究計画を立てる
- 6月19日 プレゼンテーション準備
- 6月26日 プレゼンテーション準備・個人発表
- 7月10日 発表会・授業総括・授業評価

【授業の方法】

医学部 健康総合科学科教員によるチュートリアル形式の授業です。講義やグループ演習、プレゼンテーションなどを通して、サイエンティフィックスキルの習得及びアカデミック体験やグループによる協同学習を行います。

皆さん自身が充実した大学生活あるいは豊かな生活を送るためのプログラムを作成することを軸に論文読解、グループ討議、調査、プレゼンテーションなどを系統的に学習します。

【成績評価】

初年次ゼミナール理科の評価方法によって評価します。

【履修上の注意】

学生主体で授業を進めるため、特別な事情等で欠席せざるをえない場合は、事前に必ず教員に連絡してください。

【学習上のアドバイス】

皆さん自身の大学生活に直結するトピックを扱います。充実した大学生活を送りたい人、豊かな生活を送りたい人、元気になりたい人、癒されたい人、生き活きしたい人、人間に関心のある人、健康に関心のある人にお勧めです。生物としての人も心理社会的存在としての人も扱う「健康総合科学科」の教員が担当しているからこそ提供できる授業で、理系でありながら心理社会的評価を学ぶチャンスです。ぜひ楽しんで参加してください。

大学院講義

看護管理学／看護体系・機能学分野は、看護管理学特論Ⅰ、看護管理学特論Ⅱ、看護体系・機能学Ⅰ、看護管理学・看護体系機能学ゼミを担当している。

看護管理学特論Ⅰ

| | | | | | |
|----------|--|-------|----------|-----|-----|
| 科目番号 | 41721221 | 授業科目名 | 看護管理学特論Ⅰ | | |
| タ　ー　ム | S1 | 曜　日 | 月 | 時　限 | 1・2 |
| 担　当　教　員 | 武村雪絵, 非常勤講師 | | | | |
| 講　義　室 | 医学部3号館 S201/202号室 | | | | |
| 授業開始日 | 平成29年4月10日 | | | | |
| 授業の目的 | 看護管理学とは、看護の力を効果的に患者に届け社会に活かす方法を探求する学問であり、看護の視点や価値観を組織活動に活かすことを追究する学問である。本科目では、看護管理学において重要な概念である「組織」と「人」を理解する基盤となる理論を学び、さらに組織における人の行動に影響を与える「環境」について学ぶ。また、病院経営部門で活躍している MBA 取得看護職、看護の可視化と質保証に取り組んでいる看護職工学研究者、組織開発を実践・研究している経営学研究者から講義を受け、ディスカッションを行う。これらを通じて看護管理学の概要を理解し、組織に働きかける際、あるいは、組織を研究する際に必要となる知識やパースペクティブを涵養することを目的とする。 | | | | |
| 授業の方法 | 担当教員及び非常勤講師による講義ならびにディスカッション | | | | |
| 授業の日程 | 4月10日 ガイダンス（初回は2限のみ） 4月17日 組織論／ミッションマネジメント 4月24日 病院経営の現場から（東京ベイ・浦安市川医療センター 井出恵伊子） 5月8日 リーダーシップ／キャリア発達 5月15日 医療システム社会工学による看護の臨床知の可視化と質保証 （東京大学大学院工学系研究科 水流聡子） 5月22日 【公開授業】臨床に活かす組織開発 （甲南大学経営学部経営学科 北居明） 5月29日 プレゼンテーション・セッション | | | | |
| 教科書及び参考書 | 各講義で資料の配布、参考図書を紹介を行う | | | | |
| 成績評価 | 出席、ディスカッションへの参加、講義後レポート、および最終回のプレゼンテーションと最終レポートにより統合的に評価する | | | | |
| そ　の　他 | 講師の都合により日時変更の可能性がある。 5月22日の公開授業は時間・場所が変更になる可能性があるので注意すること（決まり次第授業及び研究室ホームページで通知する）。 受講希望者は初回ガイダンスに出席すること。 | | | | |

看護体系・機能学特論 I

| | | | | | |
|----------|---|-------|--------------|----|-----|
| 科目番号 | 41721211 | 授業科目名 | 看護体系・機能学特論 I | | |
| ターム | S2 | 曜日 | 月 | 時限 | 1・2 |
| 担当教員 | 武村雪絵, 非常勤講師 | | | | |
| 講義室 | 医学部 3号館 S201/202号室 | | | | |
| 授業開始日 | 平成29年6月5日 | | | | |
| 授業の目的 | 変化する保健医療制度の中で看護学ならびに看護実践を取り巻く環境・情勢を学び、講義とディスカッションを通じて、看護の役割と機能、及び、看護を取り巻く環境に働きかけるプロセスについて考察を深める。 | | | | |
| 授業の方法 | 担当教員及び非常勤講師による講義ならびにディスカッション | | | | |
| 授業日程 | <p>6月5日 ガイダンス (2限のみ)</p> <p>6月12日 看護起業家としての挑戦 (ケアプロ株式会社代表取締役社長 川添高志)</p> <p>6月19日 法学者の立場で紐解く医療の中の看護 (前國學院大學法科大学院教授 平林勝政)</p> <p>6月26日 保健医療行政での理想の実現を目指して (厚生労働省 島田陽子)</p> <p>7月3日 ケアリング・コミュニタリアニズムの提案 (千葉大学大学院人文社会科学科教授 小林正弥)</p> <p>7月10日 プレゼンテーション・セッション</p> <p>7月24日 看護の現場と政治をつなぐ (参議院議員 石田昌宏)</p> | | | | |
| 教科書及び参考書 | 各講義で資料の配布、参考図書の紹介を行う | | | | |
| 成績評価 | 出席、ディスカッションへの参加、講義後レポート、および7月10日のプレゼンテーションと最終レポートにより統合的に評価する | | | | |
| その他 | 講師の都合により日時変更の可能性がある。 受講希望者は初回ガイダンスに出席すること。 | | | | |

看護管理学特論Ⅱ

| | | | | | |
|----------|--|-------|----------|----|-----|
| 科目番号 | 41721222 | 授業科目名 | 看護管理学特論Ⅱ | | |
| チーム | A1 | 曜日 | 月 | 時限 | 1・2 |
| 担当教員 | 武村雪絵 | | | | |
| 講義室 | 医学部3号館 N203号室 | | | | |
| 授業開始日 | 平成29年9月25日 | | | | |
| 授業の目的 | <p>ネットワークは、固定されたチーム内の協働ではなく、人々が分野を越えて結び合い即興的に協働する現象を説明する新しい活動理論で、保健医療福祉や教育の領域でこの理論を用いた実証的な事例研究が行われつつある。本科目では、人々の結び目「knot」をつくりながら参加者の役割が刻々と自在に変化してゆく、しなやかな協働の形態である「ネットワーク」について、抄読とディスカッションを通じて理解を深めることを目的とする。</p> | | | | |
| 授業の方法 | 教科書(ユーリア・エンゲストローム:ネットワークする活動理論—チームから結び目へ)の抄読とディスカッション | | | | |
| 授業日程 | <p>9月25日 ガイダンス(2限のみ)</p> <p>10月2日 まえがき・はじめに・1章/2章</p> <p>10月16日 3章/4章</p> <p>10月23日 5章</p> <p>10月30日 6章</p> <p>11月6日 7章/8章</p> <p>11月13日 9章・あとがき</p> | | | | |
| 教科書及び参考書 | <p>【教科書】 ユーリア・エンゲストローム著, 山住勝広・山住勝利・蓮見二郎訳:ネットワークする活動理論—チームから結び目へ. 新曜社, 2013.</p> <p>【参考図書】 山住勝広著, ユーリア・エンゲストローム編.:ネットワーク—結び合う人間活動の創造へ. 新曜社, 2008.</p> | | | | |
| 成績評価 | 出席、ディスカッションへの参加、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する | | | | |
| その他 | <p>講師の都合により日時変更の可能性がある。</p> <p>受講希望者は初回ガイダンスに出席すること。</p> <p>ガイダンスの際に抄読の分担を決めるので出席できない場合は事前に連絡すること。</p> | | | | |

看護管理学/看護体系機能学ゼミ

平成 29 年 4 月—平成 29 年 5 月 毎週火曜日 9:00-12:00

平成 29 年 6 月—平成 30 年 3 月 毎週火曜日 13:00-16:00

場所：医学部 3 号館 N203

- 4 月 4 日 ゼミオリエンテーション
自己紹介
- 4 月 11 日 自己紹介
研究報告
- 4 月 18 日 抄読：Arne O, Sølvi RV, Susanna BA, et al. Quality, efficiency and integrity: value squeezes in management of hospital wards. *Journal of Nursing Management*. 2015;23:65-74.
研究報告
- 4 月 25 日 文献検索セミナー@総合図書館
- 4 月 26 日 抄読：Li AN, Liao H. How do leader-member exchange quality and differentiation affect performance in teams? An integrated multilevel dual process model. *The Journal of Applied Psychological*. 2014;99(5): 847-66.
研究報告
- 5 月 10 日 抄読：Johal SS, Mounsey Z, Brannelly P, et al. Nurse perspectives on the practical, emotional, and professional impacts of living and working in post-earthquake Canterbury, New Zealand. *Prehospital and Disaster Medicine*. 2016;31(1):10-16.
研究報告
- 5 月 17 日 抄読：Bender M, Connely CD, Brown C. Interdisciplinary collaboration: the role of clinical nurse leader. *Journal of Nursing Management*. 2013;21:165-174.
研究報告
- 5 月 23 日 抄読抄読：Kantek F, Yilyildirim N, Kalva I. Nurses' perceptions of motivational factors: A case study in a Turkish university hospital. *Journal of Nursing Management*. 2015;23:674-681.
研究報告
- 5 月 30 日 抄読：Morsiani G, Bagnasco A, Sasso L. How staff nurses perceive the impact of nurse managers' leadership style in terms of job satisfaction: A mixed method study. *Journal of Nursing Management*. 2017;25:119-128.
研究報告
- 6 月 6 日 抄読：You L, Aiken L, Sloane D, et al. Hospital nursing, care quality, and patient satisfaction: Cross-sectional surveys of nurses and patients in hospitals in China and Europe. *International Journal of Nursing Studies*. 2013;50:154-161.
研究報告
- 6 月 13 日 抄読：Rathert C, May DR, Chung HS. Nurse moral distress: A survey identifying predictors and potential interventions. *International Journal of Nursing Studies*. 2016;53:39-49.
研究報告
- 6 月 20 日 抄読：Eisenahuer LA, Hurley AC, Dolan N. Nurses' reported thinking during medication administration. *Journal of Nursing Scholarship*. 2007;39(1):82-87.
研究報告
- 6 月 27 日 抄読：Han A, Won J, Kim O, Lee SE. Anger expression types and interpersonal problems in nurses. *Asian Nursing Research*. 2015;9(2):146-151.
研究報告
- 7 月 11 日 抄読：Caroline S, Susan L. Empowerment in nurse leader groups in middle management: A quantitative comparative investigation. *Journal of Clinical Nursing*. 2016;26:266-279.
研究報告

- 9月5日 抄読 : Salanova M, Lorente L, Chambel MJ, Matrtinez IM. Linking transformational leadership to nurses' extra-role performance: the mediating role of self-efficacy and work engagement. *Journal of Advanced Nursing*. 2011;67(10):2256-2266.
研究報告
- 9月12日 抄読 : Kitayama S, Park J, Boylan JM. Expression of anger and ill health in two cultures: An examination of inflammation and cardiovascular risk. *Psychological Science*. 2015; 26(2): 211-220.
研究報告
- 9月29日 抄読 : Huyghebaert T, Gillet Nm Lahiani F, Fouquereau E. Curvilinear effects of job characteristics on ill-being in the nursing profession: A cross-sectional study. *Journal of Advanced Nursing*. 2016;72(5):1109-1121.
研究報告
- 10月3日 抄読 : Caricati L, Guberti M, Borgognoni P, et al. The role of professional and team commitment in nurse-physician collaboration: A dual identity model perspective. *Journal of Interprofessional Care*. 2015;29(5):464-468.
研究報告
- 10月10日 抄読 : Eriksson N. Hospital management from a high reliability organizational change perspective: A Swedish case on Lean and Six Sigma. *International Journal of Public Sector Management*. 2017;30(1):67-84.
研究報告
- 10月17日 抄読 : Kim HS, Oh EG, Lee H, Kim SH, Kim HK. Predictors of symptom experience in Korean patients with cancer undergoing chemotherapy. *European Journal of Oncology Nursing*. 2015;19(6):644-653.
研究報告
- 10月24日 抄読 : Thomas Sy, What do you think of followers? Examining the content, structure, and consequences of implicit followership theories. *Organizational Behavior and Human Decision Processes*. 2010;113:73-84.
研究報告
- 10月31日 抄読 : Tse HH, Lam CK, Lawrence SA, Huang X. When my supervisor dislikes you more than me: the effect of dissimilarity in leader-member exchange on coworkers' interpersonal emotion and perceived help. *The Journal of Applied Psychology*. 2013;98(6): 974-988.
研究報告
- 11月7日 抄読 : Lai J, Lui S, Tsang E. Intrafirm knowledge transfer and employee innovative behavior: The role of total and balanced knowledge flows. *Journal of Product Innovation Management*. 2016;33(1):90-103.
研究報告
- 11月15日 スーパービジョン
- 11月21日 研究報告
- 11月28日 研究報告
- 12月5日 研究報告
- 12月12日 研究報告
- 12月19日 抄読 : Dellve L, Wikstrom E. Managing complex workplace stress in health care organizations: Leaders' perceived legitimacy conflicts. *Journal of Nursing Management*. 2009;17:931-941.
研究報告
- 12月26日 抄読 : Brans K, Mechelen IV, Rimé B, Verduyn P. To share, or not to share? Examining the emotional consequences of social sharing in the case of anger and sadness. *Emotion*. 2014;14(6):1062-1071.
研究報告

- 1月12日 修論発表会予演
1月16日 修論発表会予演
1月19日 修論発表会予演
1月23日 修論発表会予演
1月30日 次年度予定について
研究報告
- 2月13日 抄読：Fay L, Allison Carll-White A, Schadler A, Isaacs K, Real K. Shifting landscapes: The impact of centralized and decentralized nursing station models on the efficiency of care. Health Environments Research & Design Journal. 2017;10(5):80-94.
研究報告
- 2月20日 抄読：Flores LG, Zheng W, Rau D, Thomas CH. Organizational learning: Subprocess identification, construct validation, and an empirical test of cultural antecedents. Journal of Management. 2012;38:640-667.
研究報告
- 2月27日 抄読：Kalisch B, Lee KH. Staffing and job satisfaction: Nurses and nursing assistants. Journal of Nursing Management. 2014;22(4):465-471.
研究報告
- 3月13日 研究報告
3月19日 スーパービジョン
3月20日 修士課程を終えて

学位論文

修士論文（提出：平成 30 年 1 月 9 日／発表会：平成 30 年 1 月 25 日・26 日）
（学位取得：平成 30 年 3 月 22 日）

磯部 環. First-line nurse managers' visions of their units for future years emerged through their narratives (病棟看護師長が描くビジョン：語りから抽出された数年先に実現したい自部署の姿)

小澤 茉祐. 初めて外来で化学療法を受けるがん患者への看護師によるアセスメントの実施に関連する職場環境要因—心理面・社会に着目して(Workplace environmental factors related to the nursing assessment implementation for cancer patients before beginning outpatient chemotherapy for the first time: Focusing on psychological and social aspects)

梶井 万里絵. Job characteristics of short-time working nurses in hospital wards and its association with job satisfaction considering intrinsic work values (短時間勤務で働く病棟看護師の職特性に関する横断研究—内的労働価値を考慮した職務満足との関連)

川口 倅左. The relationship between nurses' recognized Leader-Member Exchange (LMX) and the psychological states of nurses and nurse managers: Considering the group influences (看護師の認識する Leader-Member Exchange (LMX) と看護師及び看護師長の心理状態との関連—集団の影響を考慮して)

佐伯 昌俊. Relationship between the perceptions of nursing assistants' roles and information-sharing behaviors: A cross-sectional study involving nurses and nursing assistants working in integrated community care wards (看護補助者役割の認識と情報共有行動関連—地域包括 ケア病棟の看護職及び看護補助者を対象とした横断研究)

船越 千佳. Association between organizational support during hospital ward restructuring and affective organizational commitment of nurses: A cross-sectional survey (病棟再編時に看護師が受けた組織支援と情動的組織コミットメントの関連—横断研究)

教員の活動

武村雪絵

特別講演・教育講演・研修

1. 株式会社N・フィールド. 所長研修「看護管理の基本—はじめて管理を行う人のために」. 新宿住友ビル会議室. 2017. 4. 21/ TKP 大阪淀屋橋カンファレンスセンター. 2017. 4. 28.
2. 公益社団法人医療・病院管理研究協会. 地域密着型病院看護部長の病院管理研修. 「看護管理者のコンピテンシー—成果につながる『看護管理力』の開発」. 2017. 5. 19.
3. 独立行政法人国立病院機構. 幹部看護師（副看護部長等）管理研修Ⅱ. 「看護管理者に必要なコンピテンシー」. 2017. 6. 9.
4. 公益社団法人東京都看護協会. 「コンピテンシーモデルを用いて自己成長と他者育成のヒントを学ぶ」. 東京都看護協会. 2017. 8. 1.
5. 公益社団法人兵庫県看護協会. 「ミッションマネジメント」. 兵庫県看護協会. 2017. 8. 24.
6. 公益社団法人京都府看護協会. 実践能力向上のための研修. 「看護管理者に活かすコンピテンシー（実践編）」. 京都府看護協会研修センター. 2017. 9. 2.
7. 公益社団法人沖縄県看護協会. 「ミッションマネジメントと組織開発」. 沖縄県看護研修センター. 2017. 9. 7.
8. 公益社団法人福島県看護協会. 認定看護管理者教育課程サードレベル. 「経営管理論」. 福島県看護協会. 2017. 10. 19/ 2017. 10. 26
9. 東京都福祉保健財団. 認定看護管理者教育課程ファーストレベルフォローアップ研修「コンピテンシーモデルと看護管理」. 東京都社会福祉保健医療研修センター. 2017. 10. 27
10. 公益社団法人山口県看護協会. 看護実践能力養成研修〔看護管理〕. 「看護管理にいかせるコンピテンシー」. 山口県看護研修会館. 2017. 11. 1.
11. 公益社団法人広島県看護協会. 「ミッションマネジメント」広島県看護協会会館. 2017. 11. 2.
12. 公益社団法人福井県看護協会. 看護管理能力育成研修「ミッションとエンパワメントによる管理」. 福井県看護協会. 2017. 12. 4.
13. 藍野大学キャリア開発・研究センター. 認定看護管理者教育課程セカンドレベル. 「人的資源管理論」. 2018. 2. 9.
14. 東京都ナースプラザ. 平成30年度東京都看護職員定着促進支援事業（アウトリーチ型支援）事業説明会「きらり輝く看護組織へ～中小病院が持つちから～」. 東京都看護協会. 2018. 2. 21.
15. 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター. 認定看護管理者教育課程サードレベルフォローアップ研修講演会「トップマネージャーの経験を通して～看護管理者に願うこと～」. 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター. 2018. 2. 17.
16. 東京都ナースプラザ「看護管理の基本」. 東京都ナースプラザ. 2018. 3. 2.
17. 東京都福祉保健財団. 認定看護管理者教育課程ファーストレベル特別講義「コンピテンシーモデルと看護管理」. 2018. 3. 9

非常勤講師

東京女子医科大学「看護管理論」．非常勤講師．2017. 5. 9/ 2017. 5. 16.

福島県立医科大学「看護マネジメント論」．非常勤講師．2017. 6. 16/ 2017. 6. 23.

聖路加国際大学「看護教育学演習 I」．非常勤講師．2017. 7. 15.

社会活動

日本看護協会．労働と看護の質データベース事業の推進に関する検討委員会委員長

日本看護管理学会．評議員，将来構想委員会委員

日本看護科学学会．評議員，和文誌査読委員

日本看護評価学会．評議員

日本看護系学会協議会．理事

日本医療福祉建築協会．医療福祉建築賞選考委員

文部科学省高等教育局．課題解決型高度医療人材養成推進委員会評価委員

東京都ナースプラザ訪問巡回事業．事例検討会講師．課題解決研修講師．

日本医療機能評価機構．評価部会員，訪問審査員

竹原君江

特別講演・教育講演・研修

1. 第 123 回 DMNurse 勉強会．「研究報告」．東京大学. 2017.6.5.

2. 糖尿病足外来スタッフによる足の勉強会．「実際の患者の足を見てケアを考える」．東京大学医学部附属病院. 2017.6.28.

3. The Certified Foot Care Nurse Education Program: Prevention care for diabetic foot. 'Nail and foot care: Onychomycosis and Tinea pedis' Lecture and Practicum. The Nursing Institute of Muhammadiyah Pontianak. Indonesia. 2017.8.14-15.

4. 第 124 回 DMNurse 勉強会．「インドネシア創傷ケアクリニック出張報告」．東京大学. 2017.8.28.

5. 野口博史，大江真琴，竹原君江，福田真祐，大橋優美子，門脇孝，真田弘美，森武俊．シンポジウム 4 「フットケアを深める臨床研究」，工学的アプローチによる歩行時のずれ計測と靴のフィッティングの視覚化．第 16 回日本フットケア学会年次学術集会. 2 月 9-11 日, 2018. 福岡.

6. 大江真琴，四津里英，Arisandi Defa, Suriadi, 仲上豪二郎，竹原君江，須釜淳子，玉木毅，真田弘美．シンポジウム 4 「フットケアを深める臨床研究」，グローバル・スタンダードを目指した糖尿病足潰瘍評価スケール「DMIST」の開発．第 16 回日本フットケア学会年次学術集会. 2 月 9-11 日, 2018. 福岡.

7. 竹原君江，大江真琴，野口博史，峰松健夫，福田真祐，大橋優美子，門脇孝，真田弘美．シンポジウム 4 「フットケアを深める臨床研究」，インターディシプリナリーアプローチを用いた足白癬の早期発見方法と予防ケアの開発．第 16 回日本フットケア学会年次学術集会. 2 月 9-11 日, 2018. 福岡.

社会・臨床活動

東京大学医学部附属病院 糖尿病足外来

日本創傷・オストミー・失禁管理学会 査読委員

日本糖尿病教育・看護学会 査読委員

國江慶子

社会・臨床活動

東京都ナースプラザ巡回訪問事業事例検討会講師・交流会講演講師

第21回日本看護管理学会学術集会プログラム編集委員

第48回日本看護学会（看護管理）論文選考委員

市川奈央子

社会・臨床活動

日本看護評価学会 編集委員

第8回日本看護評価学会学術集会 実行委員

研究室業績（2017年1月～2018年3月）

原著論文・研究論文

2017年1月～12月）

1. Takehara K, Amemiya A, Mugita Y, Tsunemi Y, Seko Y, Ohashi Y, Ueki K, Kadowaki T, Oe M, Nagase T, Ikeda M, Sanada H. Association between tinea pedis and feet washing behavior in diabetic patients: A cross-sectional study. *Advances in Skin and Wound Care*. 2017;30(11):510-6.
2. Yabunaka K, Nakagami G, Komagata K, Sanada H. Ultrasonographic follow-up of functional chronic constipation in adults: A report of two cases. *SAGE Open Med Case Rep*. 2017; 5. doi: 10.1177/2050313X17694234.
3. Kunie K, Kawakami N, Shimazu A, Yonekura Y, Miyamoto Y. The relationship between work engagement and psychological distress of hospital nurses and the perceived communication behaviors of their nurse managers: A cross-sectional survey. *International Journal of Nursing Studies*. 2017; 71: 115-124.
4. 藤本悠・水野光・瀬戸奈津子・布谷麻耶・市川奈央子・清水安子. クロウン病患者の運動の捉え方と影響要因の検討. *日本難病看護学会学会誌*, 2017; 21(3):181-193
5. Goto T, Nakagami G, Takehara K, Nakamura T, Kawashima M, Tsunemi Y, Sanada H. Examining the accuracy of visual diagnosis of tinea pedis and tinea unguium in aged care facilities. *J Wound Care*. 26(4); 179-183. 2017.
6. 大江 真琴, 濱谷 雅子, 野口 博史, 大場 美穂, 竹原 君江, 大橋 優美子, 植木 浩二郎, 門脇 孝, 森 武俊, 真田 弘美. 糖尿病患者における足部胼胝の要因：カルテ調査による検討. *日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌*. 2017;20(4):426-33.
7. Oe M, Takehara K, Noguchi H, Ohashi Y, Amemiya A, Sakoda H, Suzuki R, Yamauchi T, Ueki K, Kadowaki T, Sanada H. Thermographic findings in a case of type 2 diabetes with foot ulcer due to callus deterioration. *Diabetology International*. 8(3):328-33. 2017.
8. 國江慶子, 佐々木美奈子, 大西麻未. 病棟再編成プロセスにおける病棟看護師長の行動. *看護管理学会誌*. vol.21(2); 98-109. 2017.
9. Takehara K, Iizaka S, Oe M, Sanada H. Reliability and validity of a portable device for measuring stratum corneum hydration. *Journal of Japanese Society Wound, Ostomy, and Continence Management*. 2017;21(4):296-303.

2018年1月～3月）

1. Komagata K, Yabunaka K, Nakagami G, Ikeda M, Takehara K, Takemura Y, Sanada H. Confirming the placement of nasogastric tubes by hand-carried ultrasonography device. *Journal of Nursing Science and Engineering*. 2018;5(1):52-7.
2. Oe M, Takehara K, Suriadi, Sanada H. Introduction of care to prevent diabetic foot ulcer in Indonesia. *Japanese Journal of Foot Care*. (accept)

3. 原田知佳, 津田ひとみ, 市川奈央子, 瀬戸奈津子, 清水安子. 大阪府下の産科施設での妊娠糖尿病女性のフォローアップの実態調査. 大阪大学看護学雑誌. 2018 ; 24(1) : 26-34.

書籍

2017年1月～12月)

1. 竹原君江. Part2. 実践編 第2部 皮膚障害別スキンケア 足病の予防・ケア. 一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会編. スキンケアガイドブック. 照林社. 2017. p. 269-279.

2018年1月～3月)

1. 吉田千文・志田京子・手島恵・武村雪絵(編集). ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践 (1): 看護管理 第4版. 大阪: メディカ出版, 2018. 01.

総説

2017年1月～12月)

1. 野口 博史, 雨宮 歩, 大江 真琴, 竹原 君江, 真田 弘美, 森武俊. 【特集】下肢潰瘍予防・治療に役立つアセスメント. 工学技術に基づく足のアセスメント一歩き方, 足底の圧とずれの客観計測一. 日本下肢救済・足病変学会誌. 9(1):42-49, 2017.
2. 竹原君江, 大江真琴, 野口博史, 大橋優美子, 常深祐一郎, 真田弘美. 【特集】下肢潰瘍予防・治療に役立つアセスメント. 糖尿病足潰瘍予防を目的とした足白癬・爪白癬のアセスメントとケア. 日本下肢救済・足病学会誌. 9(1):25-32, 2017.
3. 駒形和典. 排泄障害のアセスメントとケア. 脳の看護実践, 2(5): 9-15, 2017.
4. 駒形和典. おむつの適切な使用とスキントラブルの対処. 脳の看護実践, 2(5): 16-23, 2017. 國江慶子. ワーク・エンゲイジメントに注目したマネジメントによる組織と個人の活性化策. 看護部長通信. 15(2): 2-8, 2017.

2018年1月～3月)

1. 林千冬・武村雪絵. 【対談】新たなケアの創造に, 多様なキャリアや価値観を活かす—人生100年時代を見据えた看護師のキャリア支援. 看護管理, 28(1): 24-30, 2018.

学会発表

2017年1月～12月)

1. 飯塚陽子, Shuyan Li, Haiqin Sun, Hongwooi Thor, 大橋優美子, 大江真琴, 竹原君江, 雨宮歩, 山田案美加, 土井麻里, 井上享子, 久井良之, 菅原正純, 北野選也, 國井大輔, Yuqian Bao, Jian Fu, 真田弘美, Guanbao Wang, Dongsheng Huang, Weiping Jia, 山内正敏, 植木浩二郎, 門脇孝. 糖尿病における医療の国際化に向けた取り組み. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会. 2017. (名古屋, 5月)
2. 大江 真琴, 竹原 君江, 野口 博史, 大橋 優美子, 門脇 孝, 真田 弘美. 0-74: 亀裂を有する糖尿病患者における踵部角質水分量. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌 21(2)第25回学術集会抄録集. 2017; (21)2:202. (第26回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 幕張, 千葉, 6月).

3. 野口 博史, 竹原 君江, 大江 真琴, 大橋 優美子, 鈴木 亮, 山内 敏正, 森 武俊, 真田 弘美. 0-75: 糖尿病患者の足白癬予防のための教育システムの開発-自動拭き取り領域検出の試み-. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌 21(2)第 25 回学術集会抄録集. 2017;(21)2:203. (第 26 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 幕張, 千葉, 6 月)
4. 市川奈央子, 南恵梨香, 清水安子. 一般病棟で終末期を過ごすがん患者を対象にした希望を叶えるための看護師の支援-専門・認定看護師の視点に着目して. 第 22 回日本緩和医療学会学術集会. 2017 (第 22 回日本緩和医療学会学術集会, 横浜, 6 月 23 日・24 日)
5. 磯部環, 武村雪絵, 國江慶子, 竹原君江, 駒形和典, 市川奈央子, 池田真理, 小見山智恵子, 相馬光代. 病棟看護師が描くビジョン: 実践の語りから抽出した数年先に実現したい自部署の姿. 第 21 回日本看護管理学会学術集会プログラム抄録集. 2017: 242. (第 21 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8 月 19 日, 20 日)
6. 佐伯昌俊, 梶井万里江, 武村雪絵, 國江慶子, 竹原君江, 市川奈央子, 佐藤喜久, 宮本やい子. 復職支援研修受講 1 年以内に就業した看護職の就業先決定に影響した因子と職場環境の実態調査. 第 21 回日本看護管理学会学術集会プログラム抄録集. 2017: 299. (第 21 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8 月 19 日, 20 日)
7. 佐藤喜久, 宮本やい子, 梶井万里江, 佐伯昌俊, 武村雪絵, 國江慶子, 竹原君江, 市川奈央子. 復職支援研修受講 1 年後の看護職の就業の実態及び就業状態による個人, 職場特性, 復職支援事業への評価の比較. 第 21 回日本看護管理学会学術集会プログラム抄録集. 2017: 299. (第 21 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8 月 19 日, 20 日)
8. 國江慶子, 武村雪絵, 市川奈央子, 竹原君江. 都内病院の好事例からみる看護部組織マネジメントの鍵. 第 21 回日本看護管理学会学術集会プログラム抄録集. 2017: 282. (第 21 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8 月 19 日, 20 日)
9. 武村雪絵, 國江慶子, 市川奈央子. 病床規模による看護部長の困難課題, 職場環境, 効力感, 心理的状态の相違: 都内病院を対象とした横断研究. 第 21 回日本看護管理学会学術集会プログラム抄録集. 2017: 287. (第 21 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8 月 19 日, 20 日)
10. 丸山佳奈, 駒形和典, 武村雪絵, 竹原君江, 國江慶子, 市川奈央子. 災害看護を追求し続け視野を広げながらキャリアを切り拓いた看護師のライフストーリー: JR 福知山線脱線事故 11 年後の語り. 第 21 回日本看護管理学会学術集会プログラム抄録集. 2017: 289. (第 21 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8 月 19 日, 20 日)
11. 石井絢子, 五十嵐歩, 武村雪絵, 野口麻衣子, 山花令子, 竹原君江, 國江慶子, 市川奈央子, 横山麻美, 山本則子. 全国の脳神経外科病棟に勤務する看護補助者の個人特性と看護業務の実施状況の実態: 横断研究. 第 21 回日本看護管理学会学術集会プログラム抄録集. 2017: 279. (第 21 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8 月 19 日, 20 日)
12. 宮原めぐみ, 佐々木美奈子, 國江慶子, 山本由加里. 職場における看護倫理課題への対応の実態調査. 第 21 回日本看護管理学会学術集会プログラム抄録集. 2017: 225. (第 21 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8 月 19 日, 20 日)
13. 倉岡有美子, 井部俊子, 佐々木菜名代, 笠松由佳, 澤邊綾子, 武村雪絵, 吉田千文, 手島恵み, 浅田祥乃. 看護基礎教育における「看護管理」の授業内容の実態-看護系大学のシラバス調

- 査. 第 21 回日本看護管理学会学術集会プログラム抄録集. 2017: 220. (第 21 回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8 月 19 日, 20 日)
14. 武村雪絵, 國江慶子, 市川奈央子. 組織的公正, 職場支援, 職務エンパワメント等の職場環境が看護責任者のバーンアウト及び職務継続意志に及ぼす影響. 日本医療・病院管理学会誌. 2017: 55(sup): . (第 55 回日本医療・病院管理学会学術総会, 東京, 9 月 17 日, 18 日)
 15. 武村雪絵, 國江慶子, 小見山智恵子, 相馬光代, 小林康司, 佐藤博子, 竹原君江, 駒形和典, 野島正寛. 看護師の職務態度及び退職率との関連からみた看護師長のコンピテンシー自己評価とリーダーシップ自己評価の比較. 第 48 回日本看護学会—看護管理—学術集会抄録集. 2017: 175. (第 48 回日本看護学会—看護管理—学術集会, 札幌, 10 月 12 日, 13 日)
 16. 國江慶子, 武村雪絵, 市川奈央子, 竹原君江. 看護部組織マネジメントにおける人材確保対策の好事例からみる看護職員確保対策の指針. 第 48 回日本看護学会—看護管理—学術集会抄録集. 2017: 185. (第 48 回日本看護学会—看護管理—学術集会, 札幌, 10 月 12 日, 13 日)
 17. 武村雪絵, 國江慶子, 竹原君江, 佐藤博子, 駒形和典, 佐々木美奈子, 池田真理, 市川奈央子. 組織を分析単位とする看護管理事例研究に特有の倫理的課題とその対処方法の検討. 第 37 回日本看護科学学会学術集会. 2017. (第 37 回日本看護科学学会学術集会, 仙台, 12 月 16 日・17 日)
 18. 國江慶子, 武村雪絵, 市川奈央子. 看護部門責任者のリーダー効力感・組織開発感に関連する職場環境: 都内病院を対象とした横断研究. 第 37 回日本看護科学学会学術集会. 2017. (第 37 回日本看護科学学会学術集会, 仙台, 12 月 16 日・17 日)
 19. 小林康司, 武村雪絵, 國江慶子, 竹原君江, 市川奈央子, 小見山智恵子, 相馬光代, 駒形和典, 佐藤博子. 看護師長のコンピテンシー自己評価と上司評価の比較. 第 37 回日本看護科学学会学術集会. 2017. (第 37 回日本看護科学学会学術集会, 仙台, 12 月 16 日・17 日)
 20. 太田 桃菜, 市川 奈央子, 清水 安子. 未就学児の医療機関受診の実態及び児の家族特性が受診行動におよぼす要因の検討. 第 37 回日本看護科学学会学術集会. 2017. (第 37 回日本看護科学学会学術集会, 仙台, 12 月 16 日・17 日)
 21. Megumi Miyahara, Minako Sasaki, Keiko Kunie, Yukari Yamamoto. Nurses' Approach to Workplace Ethical Issues (NAWEI) : a scale development. 第 37 回日本看護科学学会学術集会. 2017. (第 37 回日本看護科学学会学術集会, 仙台, 12 月 16 日・17 日)
 22. Oe M, Takehara K, Noguchi H, Ohashi Y, Kadowaki T, Sanada H. Identification of High-Risk Condition of Diabetic Foot Ulcer Using Thermography: Examination of Calluses in the Fifth Metatarsal Area. 7th Hong Kong International Nursing Forum 2017, p44. Dec 18-19, 2017. Hong Kong.
- 2018 年 1 月～3 月)
1. 小澤茉祐, 武村雪絵, 竹原君江, 市川奈央子. 初めて外来化学療法を受けるがん患者への看護師によるアセスメントの実施に関連する職場環境要因—心理面・社会面に着目して. 第 8 回日本看護評価学会学術集会. 2018. (第 8 回日本看護評価学会学術集会, 東京, 3 月 5 日・6 日)

2. 川口倅左, 竹原君江, 武村雪絵, 市川奈央子, 駒形和典, 小見山智恵子, 小林康司. 看護師長の心理状態と部下看護師が認識する Leader-Member Exchange (LMX) との関連. 第8回日本看護評価学会学術集会. 2018. (第8回日本看護評価学会学術集会, 東京, 3月5日・6日)
3. 野口博史, 大江真琴, 竹原君江, 福田真祐, 大橋優美子, 門脇孝, 真田弘美, 森武俊. シンポジウム4「フットケアを深める臨床研究」, 工学的アプローチによる歩行時のずれ計測と靴のフィッティングの視覚化. 第16回日本フットケア学会年次学術集会. 2月9-11日, 2018. 福岡.
4. 大江真琴, 四津里英, Arisandi Defa, Suriadi, 仲上豪二郎, 竹原君江, 須釜淳子, 玉木毅, 真田弘美. シンポジウム4「フットケアを深める臨床研究」, グローバル・スタンダードを目指した糖尿病足潰瘍評価スケール「DMIST」の開発. 第16回日本フットケア学会年次学術集会. 2月9-11日, 2018. 福岡.
5. 竹原君江, 大江真琴, 野口博史, 峰松健夫, 福田真祐, 大橋優美子, 門脇孝, 真田弘美. シンポジウム4「フットケアを深める臨床研究」, インターディシプリナリーアプローチを用いた足白癬の早期発見方法と予防ケアの開発. 第16回日本フットケア学会年次学術集会. 2月9-11日, 2018. 福岡.

受賞

2017年1月～12月)

1. 【第21回日本看護管理学会学術集会 オーラル賞】磯部環, 武村雪絵, 國江慶子, 竹原君江, 駒形和典, 市川奈央子, 池田真理, 小見山智恵子, 相馬光代. 病棟看護師が描くビジョン: 実践の語りから抽出した数年先に実現したい自部署の姿. 第21回日本看護管理学会学術集会プログラム抄録集. 2017: 242. (第21回日本看護管理学会学術集会, 横浜, 8月19日, 20日)
2. 【日本慢性看護学会 第3回学会賞】受賞論文: 梶井万里絵, 田中真琴, 斎藤凡, 川上明希, 山本則子. クロウン病患者の病状悪化の認識と受診判断遅れの可能性. 日本慢性看護学会誌. 2015;9(1):2-9 (第11回日本慢性看護学会で受賞講演を実施)

研究助成など

研究助成)

1. 武村雪絵 (研究代表者). 病床再編及び原発事故後の組織運営に関する理論の構築—看護管理学事例研究手法の開発, 平成28年度-平成30年度.
2. 武村雪絵 (研究分担者). Healthy Work Environmentを実現する看護管理モデルの開発. 平成28年度-平成30年度.
3. 竹原君江 (研究代表者). 糖尿病患者を対象とした足白癬アセスメントツールの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C), 平成27年度-平成29年度.
4. 國江慶子 (研究代表者). 看護師の経済的・社会的・組織的価値認識—3次元共通価値拡大モデルの構築. 日本学術振興会科学研究費補助金若手研究(B), 平成29年度-平成31年度.
5. 市川奈央子 (研究代表者). 看護職のプロフェッショナルリズム育成プログラムの開発に向けて. 日

本学術振興会科学研究費補助金若手研究(B), 平成 29 年度-平成 31 年度.

6. 國江慶子・武村雪絵・市川奈央子. 中小規模病院看護組織へのアウトリーチ相談型支援提供者の専門的技能及び実践プロセスとその成果の同定－東京都巡回訪問事業支援員と被支援組織を対象としたプロセス分析. 一般社団法人日本看護管理学会研究助成, 平成 30 年度-平成 31 年度.
7. 梶井万里絵 (修士課程 2 年). 短時間勤務看護師の労働アウトカム向上と関連する業務配分についての研究－職務特性と労働価値に着目して－. 政策医療振興財団研究助成. 平成 29 年度-平成 30 年度
8. 梶井万里絵 (修士課程 2 年). 短時間勤務看護師への業務配分と職務特性、労働価値、労働アウトカムの関連. 公益財団法人 医療科学研究所研究助成. 平成 29 年度-平成 30 年度

奨学金)

船越千佳 (修士課程 2 年). 公益社団法人日本看護協会 高橋美智大学院教育 (看護管理) 奨学金

教室の出来事

2017年4月1日 グローバルナーシングリサーチセンターが設立されました。

日本初の看護系リサーチセンターとして、東京大学大学院医学系研究科附属グローバル
ナーシングリサーチセンター（GNRC）が設立されました。



2017年4月3日 新年度が始まりました。

特任助教1名、新大学院生5名、教室所属学部生1名を迎え、教室のオリエンテーション・ウェルカムランチの後、満開の桜の下で記念撮影をしました。研究室メンバー一同、新たな気持ちで新年度をスタートしました。



2017年4月16日 武村雪絵准教授がグローバルナーシングリサーチセンターに着任されました。

教室責任者武村雪絵准教授が、グローバルナーシングリサーチセンター看護システム開発部門ケア
クオリティ・マネジメント分野准教授（兼担）に着任しました。

2017年5月13日 大学院説明会が開催されました。

5月13日（土）に大学院健康科学・看護学専攻の入試説明会が開催されました。教室説明会にも多くの方にご参加いただきました。



2017 月 5 日 26 日 歓迎会を開催しました。

今年度の歓迎会は、新大学院生も馴染み始めた時期での開催となりました。より親睦も深まり、楽しい集いになりました。



2017 月 5 日 22 日 北居明先生をお招きし講義をしていただきました。

5 月 22 日（月）看護管理特論 I の公開講義に甲南大学経営学部経営学科 教授 北居明先生をお招きし、組織開発について講義をしていただきました。学外からも多くの方に御参加いただきました。



2017 月 8 日 2 日～9 日 サマープログラムが開催されました。

香港、台湾、タイから 4 大学 7 名の看護師資格を持つ大学院生がプログラムに参加してくださいました。今年度のサマープログラムは、本学体験活動プログラムとしても公開したため、教養学部 1 年生 1 名も一緒に全てのプログラムに参加しました。

プログラムでは、武村准教授の日本の看護についての講義や大学院生同士の研究交流などが行われ、お互いの国の看護を知り、活発な議論ができました。





2017年7月6日 院生の梅井万里絵さんが第11回日本慢性看護学会で学会賞を受賞しました。

修士課程2年の梅井万里絵さんが、卒業論文で取り組んだ研究で、第11回日本慢性看護学会で学会賞を受賞し、受賞講演を行いました。



2017年7月18～28日 学部の基礎看護学実習を行いました。

東京大学医学部附属病院で実習をさせていただきました。日々学び、日々成長する充実した実習となりました。



2017年8月19日・20日 第21回日本看護管理学会学術集会で発表しました。

横浜で開催された第21回日本看護管理学会学術集会で、当研究室から共同研究も含め9演題発表を行いました。

2017年8月20日 院生の磯部環さんが第21回日本看護管理学会学術集会オーラル賞を受賞しました。



2017年8月20日納涼会を行いました。

第21回日本看護管理学会学術集会後、学会が行われた横浜で開催しました。客員研究員の先生にも御参加いただき、楽しい時間となりました。

2017年9月17日・18日 第55回日本医療・病院管理学会学術総会で発表しました。

東京で開催された第55回日本医療・病院管理学会学術総会で1演題の発表を行いました。

2017年9月21日～28日 学部の看護管理学実習を行いました。

東京大学医学部附属病院、東京大学医科学研究所附属病院、聖路加国際病院で看護管理学実習をさせていただきました。管理の視点から病院を見る、という体験から、学生は新たな視点を得、多くのことを学ぶことができました。

2017年9月20日 院生の船越千佳さんが高橋美智大学院教育奨学金に採択されました。

修士課程2年の船越千佳さんが高橋美智大学院教育（看護管理）奨学金に採択されました。看護管理学と看護管理実践に貢献できるよう、一生懸命取り組んでいます。



2017年10月12日・13日 第48回日本看護学会—看護管理—学術集会で発表しました。

札幌で開催された第48回日本看護学会—看護管理—学術集会では、当研究室から2演題発表しました。

2017年12月16日・17日 第37回日本看護科学学会学術集会で発表しました。

仙台で開催された第37回日本看護科学学会学術集会で、当研究室から共同研究も含め5演題発表しました。



2017年12月19日 7th Hong Kong International Nursing Forum 2017で発表しました。

香港でのForumで研究室メンバーの共同研究1演題が発表されました。

2017年12月15日 ソウル大学看護管理学教授が来校されました。

ソウル大学看護管理学のキム教授と博士課程大学院生が、日本の入院看護体制の情報収集のため、来校されました。研究室で情報交換し、東京大学医学部附属病院を見学しました。とても有意義な時間となりました。



2018年1月9日 修士論文を提出しました。

修士課程の学生6名が修士論文を提出しました。終了後、研究室でお祝いしました。

2018年1月26日 修士論文発表会が開催されました。

修士論文を提出した6名が修士論文発表会で発表しました。

2018 月 1 日 26 日 新年会を開催しました。

修士論文発表会の後、打ち上げも兼ねて新年会を行いました。修士 2 年生はもちろん、修士論文を応援してくれた 1 年生もほっとした表情で和やかな会となりました。

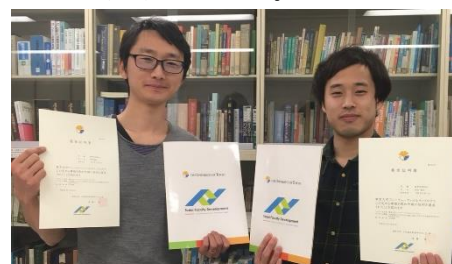


2018 月 2 日 9 日・10 日 第 16 回日本フットケア学会年次学術集会で発表しました。

当研究室メンバーから、共同研究も含め 3 演題発表しました。

2018 月 2 日 28 日 院生が東京大学フューチャーファカルティプログラムを修了しました。

修士 1 年生の甲斐貴雅さんと長坂雄太さんが東京大学が開催する、教育力向上を目的とした「東京大学フューチャーファカルティプログラム（東大 FFP）」を修了しました。



2018 月 3 日 5 日・6 日 第 8 回日本看護評価学会学術集会で発表しました。

第 8 回日本看護評価学会学術集会では、当研究室から 2 演題発表しました。

2018 月 3 日 22 日 大学院修士課程の学位授与式が行われました。

当研究室からは 6 名が修士課程を修了しました。修士号取得おめでとうございます。



学位授与式当日夜に、感謝の会を行いました。この日を迎えることができた感謝の気持ちをお互いに伝えあい、来年また協力し支え合いながら、皆で向上していくことを確認しました。また、ご栄転される先生や卒業される学生方の新たな門出もお祝いしました。



2017年3月23日 学部の卒業式が行われました。
基礎看護学教室からは、学部生1名が卒業しました。
ご卒業おめでとうございます。



2017年3月31日 竹原君江講師がご栄転されました。修士課程修了生2名と休学中の学生1名が研究室を卒業しました。
竹原君江講師は、4月より名古屋大学医学部・医学系研究科看護学専攻に准教授として着任されます。また修士課程修了生2名は就職し社会人になり、受験勉強のため休学していた1名は医学部に進学します。ご活躍を期待しています。